

令和6年度 市政に関する市民懇談会記録（ハロープラザ）

日 時 令和6年10月12日（土）14：00～

会 場 ハロープラザ 多目的ホール

参加人数 16名

出 席 者 市長、企画部長、市民生活部長、
企画政策課長、情報戦略担当（事務局）

テー マ 「みんなが幸せに生きられるまちにするにはどうしたらいい？」

《意見交換》

参加者：市議会議員の質に疑問を感じる。

市の組織や施策に横文字が多く分かりづらいので、分かりやすい表示にしてほしい。
自分の自治会は加入率100%をキープしている。

市 長：市民にわかりやすく、注釈表記や説明を加えたりという対応も検討していきたい。

横文字表記は対外的には反響もあり、特に民間企業が関心を持ってくれている。起業と包括連携協定を締結し、環境に関する取り組みを実施している。市の「強み」を全国に発信していくことが企業や国へのPRにもつながる。

参加者：地上デジタル化に伴いテレビ共同受信システムを導入している。加入者の退会が増え、組合の収入が減少して赤字で、維持費を捻出することが困難（事業を中止するにしても別途費用がかかる）。このままではテレビ視聴を断念せざるを得ない。市役所にも相談したが対応は難しいとのことだったが、改めて、組合存続のためにも、市にも負担をお願いしたい。

市 長：特定の地域で実施している事業に対して市が費用を負担することは、現状では難しい。国側でも制度設計は考えていると思うので、情報収集を行いながら引き続き寄り添っていきたい。

参加者：防災無線（スピーカー）が使われなくなり、災害情報が全く入ってこないので復活してほしい。夏に大雨が降った際、地域で連絡がつかないことがあった。

市 長：防災無線（スピーカー）は聞こえる地域と聞こえない地域に分かれてしまう。市では防災ラジオの貸出しを行っているので、適宜相談をしてほしい。スマートフォンを持っている方は、みるメールや市公式LINEを利用してほしい。

参加者：横文字の部署が分かりにくいので、市民にわかりやすい窓口にすることを第一優先にしてほしい。

地域の一斉清掃について、道路の清掃活動にはできるだけ市の職員も参加してもらいたい。今後は地域の企業にも参加をお願いしようと思っている。市の施設周辺の道路も草が伸びているので、行政の参加も必要だと思う。

市 長：横文字部署については、制度変更も含めて丁寧に説明していきたい。

一斉清掃へ職員を強制参加させることは難しいが、ボランティア活動や地域活動に加え、企業にも訴えながら、強制的ではない方法で議論していきたい。

参加者：那須塩原市は自然が豊かで、駅から山が見える風景は特に美しい。また、おいしいものが多く、その部分をもっとPRすれば若い人も呼び込めるのでは。

子育てもしやすい環境が整っていると思うが、雇用等、収入が安定しないことが若者が都会に出ていく大きな要因だと感じる。地元の若者を経済面や雇用面でもっと支援できる体制があればよいと思う。

市長：那須塩原市では、リモートワークをする人が増えており、移住者だけではなく、一週間のうち半分は東京、もう半分は地元（リモート）でという人が増えている。働き方改革に乗じて若者支援を行っていきたい。

参加者：移住者が増えているそうだが、市の人口と移住者の増加は市の想定どおりなのか。自治会の加入率が減少傾向にある中、市としてどのような対応を考えているのか。

市長：移住者の増加は市の想定以上で、転入超過が続いている。一方、出生率はコロナ禍以降は減少傾向。転入超過は一つのチャンスなので、少子化対策や転出対策を行い、那須塩原市に住んでもらえる環境づくりを進めていきたい。

転入者は多いが自治会加入者は減少傾向にあるため、自治会に入ることのメリットをお知らせしていけたら良いと思う。

参加者：テレビ共同受信システムの件は、市の主導で実施したもので、地域が主で行ったことではないとお伝えしておきたい。

ごみネットが老朽化で傷んでいるため、新しいものに変えてほしい。

市長就任後、街がおしゃれになってきたと思う。横文字は苦手だが国際都市を目指す那須塩原としてはよいことだと思う。

市長：共聴組合の意見については理解した。

ごみネットについては担当課へ直接話を来ていただくようお願いしたい。

参加者：ドア to ドアでの交通移動政策をお願いしたい。ゆータクプラスの実証実験では、乗れるのが自宅からバス停まで、目的地まで行けないのが不便。

那須塩原市は自家用車がないと住めないが、若い世代でも、マイカーを持つのは大変。ドア to ドアが実現すれば、高齢者だけでなく若者も住みやすくなるのではないか。見直し等する際は、利用者の意見もしっかり聞いてほしい。

市長：公共交通の在り方については日々研究をしている。ゆータクプラスについてもメリット・デメリットがあるが、引き続き研究していきたい。ドア to ドアの実証等は、エリアを限定して行うなど研究を続けていきたい。新しい方法と従来の方法を比較しながら良い方法を検討していきたい。

参加者：自分の住む地域の近くに森林が伐採されてメガソーラーができた。自然が破壊されているが、規制することはできないのか。

令和7年度から施設の利用料金が変わるそうだが、公民館での活動が多い団体ほど負担が多くなる。公民館の利用料が上るのは残念。事前に市民の意見を聞く懇談会を実施してほしかった。

市長：那須塩原市では条例により厳しく規制しているが、罰則がないのが現状。今後は具体的な対応策を研究する必要がある。

公民館は多くの人に使用してもらいたいと思っているので、利用料の改定について

説明が不十分であったことは申し訳なく思っている。災害時に電力や情報が公民館に行けば手に入るといった仕組みづくりに取り組んでいる。そういう取り組みをしていることも併せてご理解いただければと思う。

参加者：近年空き地・空き家の増加や、道路脇の草の状況がひどい。所有者が不明の土地も多くあると思うが、固定資産税の通知や窓口などで、所有者へ土地を管理するよう啓発をしてほしい。

市長：空き地や空き家については、法律が緩和されてきており、以前は対処が難しかった物件も対処できるようになってきている。古い家はリフォーム相談や空き家バンクでの問い合わせが多く、意外と需要がある。空き家バンクとの併用で利活用が進むように検討していきたい。

参加者：息子が自閉症で感覚過敏でマスク着用が難しい。数年前（コロナ禍の時）に図書館に行った際に、息子もマスクの着用をお願いされたが、事情があつて着けられない人もいることも知ってほしい。

また、息子が本を取ろうと本棚に足をかけたら、「足をかけて上がらないように」と注意を受けた。どういう行動をしてほしいのか、子どもでも分かるように声かけをしてもらいたい（「本を取りたいときはお母さんや図書館の人に声をかけてね」など）。障害がある人にも寄り添ってくれる、訪れやすく心地よい空間造りをお願いしたい。

市長：ご迷惑をかけて申し訳ない。コロナ禍で職員も警戒心が高かった時期でもあったと思う。最近になって共生社会の考え方方が広まりつつあるが、まだ障害のある方に対する配慮が不十分に感じる。図書館に限らず、バリアフリーについて様々な人の立場に立って考えていかなければならないし、勉強していくことが大事。

これからは障害の方の視点に立って、共生社会という環境づくりをみんなで行っていきたいと思う。

参加者：野生動物による農作物被害の対策を行ってほしい。近隣でも熊の目撃情報が新聞に掲載されていた。鳥獣駆除の対応策を講じてほしい。

国道400号の一部区間は大雨で交通が遮断されるなど、運転も危険な時があるので、市から土木事務所に対応策の協議を行ってほしい。

市長：コロナ禍で外出自粛が長かった分、野生動物が繁殖して鳥獣被害がかなり増えたのではないかと思う。他地域での成功事例なども参考に課題解決を計っていきたい。国道は危険な所もあるので、毎年栃木県や土木事務所へ要望を伝えている。引き続きそういった声を伝えていきたい。

参加者：観光局付近の歩道の草が伸びて通行に支障があるし見た目もよくない。観光客が多く訪れる場所なので適切に管理をしてほしい。

育成会やP.T.Aなど、地域コミュニティへの加入者の減少が深刻。消防団も同様で、将来的には隣接する地区との統合も検討する必要があるのではないか。

郷土芸能関係は、活動費用の不足により活動を自粛する地区も増えてきている。地域にとって大切な活動なので、市からも援助をお願いしたい。

関谷の区画整理地は、定年退職後に移住してきた人が多いが、高齢になると子供が住む都市へ引っ越すケースが多く、空き家が増えてしまうことが問題。

市 長：現在、那須塩原市は人口が増えている地域と過疎化の地域に二極化してきている中で、地域ごとに異なる行政課題があり、何とかできないかと思っている。

消防団の統廃合は、地域の地縁や慣習があつて難しいのが現状。統合によりエリアが広がることで、有事の際に現場から遠くなってしまう懸念もある。消防団に限らず、今後の体制を考えていく必要がある。

地域の郷土芸能は歴史があるので素晴らしい。地域の文化を守るためにも、郷土文化の重要性を引き続き訴えていきたい。